

Welfare

[ウェルフェア]

2025

72

2026年度 社会福祉助成事業実施要綱

CONTENTS

P2 2025年度社会福祉助成事業助成先一覧

P4 2026年度社会福祉助成事業実施要綱

P6 ハートで支える日社済! ～日社済助成事業成果報告～

特別養護老人ホームにおける音楽療法の実際とその効果
社会福祉法人 高田真善会(三重県)

子育て支援者養成講座
特定非営利活動法人 ファミリーステーションRin(愛知県)

転倒予防・歩行能力の維持を目的としたフットケアの啓発活動
チームやまなあし

P12 【特集1】2024空飛ぶ車いす in Sri Lanka

ー雨風に負けない車いすを求めてー

P14 【特集2】空飛ぶ車いすボランティア校紹介

ー21年の歩みと3000台 高校生エンジニアの挑戦ー
神戸市立科学技術高等学校

P17 車いす修理のQ&A

ー失敗しない! タイヤ交換と梱包のポイントー

P18 「書き損じはがき」収集ご協力をお願い

P19 福祉の共済コーナー

2025年度 助成金交付団体決定

2025年度の助成金交付先は、社会福祉向上を目指した研修事業と研究事業を対象として、56団体に2,063万円の助成を決定しました。今年度の公募においては、北海道から沖縄まで数多くの社会福祉法人や一般（公益）社団法人、NPO法人、その他任意団体等から多方面にわたる事業内容の案件をいただきました。また、アジア福祉助成については5か国5団体に150万円の助成を決定しました。

2025年度 助成先一覧

1. 社会福祉助成事業

A. 研修事業 50団体 助成額：1,763万円

都道府県	団 体 名	事 業 名
岩手県	社会福祉法人 岩手ひだまり会	家族と地域が育む未来：療育者と共に未来を支える支援研修
岩手県	一般社団法人 Piece of happiness	自閉症児者への支援プログラムトレーニングセミナー事業
秋田県	特定非営利活動法人 秋田たすけあいネットあゆむ	発達障がい児と保護者に寄り添い自立に向けた支援を行うため研修事業
埼玉県	社会福祉法人 けやきの郷	行動障害支援の質向上と職員育成推進事業
千葉県	社会福祉法人 東京栄和会 うらやす和楽苑	浦安市において若年性認知症を共に考える研修等事業
千葉県	社会福祉法人 心友会しいのみ園	しいのみ園施設視察研修事業
千葉県	特定非営利活動法人 自立支援ネット我孫子	地域住民及び福祉職員に対しての自己理解研修
東京都	社会福祉法人 いのちの電話	ボランティア相談員の研修
東京都	社会福祉法人 東京コロニー 東京都葛飾福祉工場	「在宅就労セミナー2025」開催
東京都	社会福祉法人 母子生活支援施設ベタニヤホーム	PCITの母子生活支援施設への実装的取り組み
東京都	公益社団法人 日本チャリティ協会	パラアート国際交流活動事業
東京都	特定非営利活動法人 AYA	墨田区におけるアクセシビリティ向上を目指した、障がいのある子どもたちと興行施設事業者のための実地調査・研修会
東京都	特定非営利活動法人 たま咲良の会	「紙上研修」・「現場型出前研修会」・「居場所研修会」による超高齢化団地の防災・福祉波状研修会
東京都	特定非営利活動法人 BASE	精神科病院から地域へ——表現でつながる連続講座
東京都	ゆめ旅KAIGO!! フォーラム実行委員会	ゆめ旅KAIGO! フォーラム Vol.10 開催
東京都	江戸川区熟年者福祉施設連絡会	北欧から学ぶノーマリゼーション研修 ～共生社会の実現を目指して～
神奈川県	社会福祉法人 訪問の家 地域活動ホーム連	豊かな想像（創造）力を養うためのラジオ、演劇ワークショップ
神奈川県	特定非営利活動法人 ひだまりの森	対人援助者のための自殺対策「ゲートキーパー」研修
新潟県	新潟医療福祉大学 空飛ぶ車いすサークル	東北車いす修理会（仮）
岐阜県	社会福祉法人 喜望会 特別養護老人ホーム みのがみの郷	施設認証制度を活用して、「持ち上げない移動移乗技術」の普及・定着を図り、介護職員の腰痛を予防する
静岡県	社会福祉法人 明光会 障害者就労支援シンポジウム実行委員会	障害者就労支援シンポジウム～就労選択支援をどう活用するか～
静岡県	社会福祉法人 天竜厚生会	社会福祉法人天竜厚生会 実践発表会
静岡県	一般社団法人 絆奏舎	「木育から考える私たちの暮らし」木育推進員養成講座
愛知県	社会福祉法人 AJU自立の家	地域移行を目指す若手障害当事者の発掘・育成のための相互研修活動事業
愛知県	特定非営利活動法人 ファミリーステーションRin	子育て支援者養成講座
愛知県	特定非営利活動法人 子ども&まちネット	障がいのある子ども・若者の性教育 ～もっと楽しく もっと自由に 性を語ろう！～
愛知県	愛知県重度障害者団体連絡協議会 アジア・アジアパラ競技大会から始めよう！	～みんなで作り続ける地域と共に生きる社会変革を～
滋賀県	特定非営利活動法人 滋賀自閉症研究会たんぼぼ	令和7年度 自閉スペクトラム症にかかわる方のためのオンライン連続セミナー全3回
京都府	社会福祉法人 カトリック京都司教区カリタス会 総合福祉施設 東九条のぞみの園	芸術家による福祉職員への研修を通して、ご利用者の表現や人生を理解する
京都府	公益社団法人 認知症の人と家族の会	最期まで「私」らしく生きたい～認知症の人と家族への援助をすすめる第41回全国研究集会 in 北海道～

(社会福祉助成・アジア福祉助成)

都道府県	団 体 名	事 業 名
大阪府	社会福祉法人 かたの福祉会	障害のある人に対する理解を深めるための研修事業
大阪府	社会福祉法人 ふらっぷ	第20回あーす祭 UP SIDE DOWN
大阪府	公益社団法人 大阪介護支援専門員協会 堺市中央区支部	自分らしい生き方や暮らしを続けるために、皆で「マイケアプラン」を学びましょう♪
大阪府	特定非営利活動法人 ハニー・ビー	第14回みんなでワイワイさんあいイベント
大阪府	特定非営利活動法人 大阪精神医療人権センター	精神科入院者への権利擁護活動に関する経験交流会・事例検討会
大阪府	特定非営利活動法人 聖公会生野センター	精神障がい者の音楽を通じた社会参加
大阪府	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪	改めてパーソン・センタード・ケアを考える
大阪府	特定非営利活動法人 ジェイズ・マス・クワイア	精神障害者と家族の関係回復コンサート
大阪府	大阪ソーシャルワーク研究所	「第2回 ソーシャルワーク学研究」大阪セミナー
兵庫県	特定非営利活動法人 ハートフル 障害者相談支援センター輪っふる	個別面会活動者養成研修およびフォローアップ
奈良県	全国ギャンブル依存症家族の会 京都	ギャンブル依存症セミナー・当事者家族相談会
和歌山県	和歌山重症心身障害研究会	第13回和歌山重症心身障害研究会の開催
広島県	社会福祉法人 若葉	不登校児童支援に関して職員への専門性を高める研修と、不登校児童の保護者対象の座談会の実施事業
広島県	高齢者ファッションモデルクラブ運営会	omekashi
香川県	福祉works MANMARE (ふくしワークス まんまーれ)	市民が講師!? 「みんなで創るふくし専門講座」
福岡県	社会福祉法人 翔空会	施設職員が障がい者や親や地域の方々とともに学ぶ「発達と障害の理解促進のためのタイプ別研修会」
福岡県	一般社団法人 久留米健康くらぶ	『ものわすれ無料相談室』と『住民型認知症カフェ』の普及拡大で早期発見・進行防止を!
福岡県	福岡県立図書館 音訳の会	良質な録音図書製作のための音訳技術の向上
福岡県	北九州緩和ケアネットワーク	研修会および在宅ホスピスフェスタ
福岡県	福岡県軽費ケアハウス協議会	高齢者福祉の現場にいる人たちが医療・介護・福祉の新たな見方を学ぶための研修

B. 研究事業 6団体 助成額：347万円

都道府県	団 体 名	事 業 名
北海道	特定非営利活動法人 レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク	僻地在住ひきこもり当事者と家族の孤独孤立予防地域連携促進事業
埼玉県	特定非営利活動法人 jogo	全国で音楽活動を行っている障害のある方および福祉事業所の調査研究およびアウトリーチ事業
東京都	一般社団法人 日本車椅子シーティング協会	WHO等国際機関の車椅子・支援技術関係資料翻訳事業
東京都	特定非営利活動法人 病気の子ども支援ネット 遊びのボランティア	子どもを亡くした親たちのグリーフケアを推進・普及するための事業
神奈川県	特定非営利活動法人 つなぐ	法人後見に焦点をあてた会計に関する調査研究
奈良県	社会福祉法人 わたぼうしの会	高齢化する障害のある人と医療・地域の暮らしに関する調査研究

2. アジア福祉助成事業 5団体 助成額：150万円

国	所 属	事 業 名
韓国	ホーム・シェアリング・ナーシングセンター	サービスの質の向上を図るための職員研修と高齢者・障害者の社会適応外出プログラム
フィリピン	クリブス財団	「新しい始まり」特別教育プログラム
タイ	ネオ・ヒューマニスト財団	「健康な身体、健康な心」プロジェクト
スリランカ	シッタータ児童発達財団	『安寿(あんじゅ)』～「やりたい」を「できる」に変えよう(家庭内高齢者の社会参加促進プログラム)
インドネシア	サウダラ・セジワ財団	「食糧安全保障活動を通じた障害者のための気候変動影響予測プログラム

社会福祉助成事業 実施要綱

申請期間：2025年11月1日～2025年12月15日

2026年度日社済「社会福祉助成事業」のご案内

公益財団法人日本社会福祉弘済会は、少子高齢化が進展し、多様化する福祉需要のなかで社会福祉の向上を目指した“研修事業”や“研究事業”に助成することにより、豊かな福祉社会の実現に寄与することを目的といたします。

2026年度も下記の通り、社会福祉関係者（社会福祉施設等社会福祉事業に従事する方々等）に係る研修・研究事業に対して、公募による助成事業の募集を行います。

助成対象事業と助成対象経費

【研修事業】

①対象事業

○福祉施設職員の方などを対象としたケース

福祉施設職員等が幅広い視野と専門性を持って福祉サービスの支援業務向上に携わるために実習する研修事業

○地域住民の方などを対象としたケース

福祉サービスのあり方や専門的知識・技能の習得などをテーマとして開催される集合研修事業（研修会、セミナー、講演会など）

②対象経費

○講師謝金・交通費・宿泊費・会場費・報告書作成費

【研究事業】

①対象事業

○福祉サービスの向上等を目的とした先駆性ある事業の実践を通して行われる研究事業

○社会福祉関係者の専門性の向上、現任訓練の方法や体系、また就労、福利厚生などをテーマとする調査研究事業

②対象経費

○研究事業費・調査経費・謝金・原稿料・報告書作成費

人件費・飲食費・物品購入費・その他一般管理費は助成対象外です。

2 事業実施期間と助成金額

①事業実施期間

2026年度（2026年4月から翌年3月末）中に実施される事業

②助成金額

1件（1団体）あたりの上限額50万円（総額2,000万円以内）

※助成対象経費合計の80%以内かつ50万円以内となります。



公益財団法人 日本社会福祉弘済会

申請書用紙等はホームページからダウンロードください

<https://www.nisshasai.jp/>



3 申請条件

- ① 申請団体は社会福祉事業や福祉施設の運営、福祉活動などを目的とする非営利の団体とします。
(社会福祉法人、財団法人、社団法人、NPO法人、任意団体、学校、その他のボランティアサークル等)
- ② 営利・宗教・政治活動を含むもの、またこれらの目的のための事業は受付けいたしません。
- ③ 反社会的勢力及び反社会的勢力と関係すると認められる法人、団体からの申請は受付けいたしません。
- ④ 助成対象となった場合、団体名、代表者氏名、所在地、事業内容、助成金額等を公表いたします。
また、実施事業に参加もしくは事後に訪問することがありますので、ご了承の上お申し込みください。
- ⑤ 申請は1団体1事業とします。

4 申請方法

- ① 申請書 2025年9月中旬以降に、日本社会福祉弘済会のホームページ(<https://www.nisshasai.jp/>)
をご覧ください。申請書用紙等はホームページからダウンロードの上、ご使用ください。
- ② 申請期間 2025年11月1日～2025年12月15日
- ③ 提出先 下記アドレスに申請書を添付のうえ電子メールにて申請してください。
E-mail : jyosei@nisshasai.jp



助成要綱のページ

※申請方法についてご不明な点があればご相談ください。

※申請書に記載されている個人情報本事業の選考に関わる業務のみに使用し、それ以外には使用いたしません。

5 審査と結果通知

- ① 申請案件は予備審査後、選考委員会の選考を経て、理事会(3月開催予定)で決定します。
- ② 選考結果は採否に関わらず決定後、各申請団体にご連絡いたします。(2026年3月下旬予定)
- ③ 申請書類は返却いたしません。
- ④ 採否の理由や選考に関する問い合わせには応じられませんのでご了承ください。

6 添付資料

申請時に下記資料をご準備ください。必要に応じてご提出いただくことがあります。

- ① 申請団体の定款(任意団体は規則、規定)
- ② 申請団体紹介パンフレットや団体発行の機関誌など
- ③ 申請団体の直近の事業報告、決算書
- ④ 申請団体の役員(会員)名簿

7 事業完了報告書の提出

助成事業終了後1ヶ月以内に、事業完了報告書をご提出ください。

※事業完了報告書の作成要領は、助成決定時にご通知いたします。

●助成事業成果報告

特別養護老人ホームにおける音楽療法の実際とその効果

社会福祉法人 高田真善会
理事長 千草 篤磨

1. 団体の紹介

社会福祉法人高田真善会は、1980年に認可を受け、翌1981年4月に仏教福祉の精神を理念として特別養護老人ホーム報徳園を開設した。その後、ショートステイ、デイサービス、在宅介護支援センター等を併設してきた。現在、特別養護老人ホーム定員110人、ショートステイ15人、認知症対応型デイサービス12人、職員数は86人である。2005年及び2016年に「みえ福祉第三者評価」を受審した。令和5年度からは、「みえ働きやすい介護職場取組宣言事業所」に認定されている。

2. 助成事業概要

特別養護老人ホームでレクリエーションとして歌を歌ったり、音楽を聴いたりして楽しむという活動は、従来から広く行われてきたところである。そこで、特別養護老人ホームにおいてどのように音楽療法が展開され、音楽レクリエーションとどのように異なり、またどのような効果が期待されるのかを、専門家と共に実践研究し、成果を広く地元の高齢者施設に還元していこうとする実践研究を目指す。実施期間は、2024年6月から10月までとし、その後に実施内容を分析検討して冊子にまとめる。実施場所は社会福祉法人高田真

善会特別養護老人ホーム報徳園の集会室やホール等を使用する。音楽療法の実施にあたっては、津市にある高田短期大学の長谷川恭子先生（日本音楽療法学会認定音楽療法士）に協力を依頼し、毎月1回1時間程度のセッションを5回行うこととする。毎回のセッションを動画撮影し、冊子には文章と写真の他、QRコードを入れて動画を見ることができるようにする。冊子は三重県内の高齢者福祉施設、学校等に郵送で配布する。

3. 事業の成果

期間中毎月1回のセッションを実施した。第1回目はリハーサルとして、会場の様子や高齢者の人数、並び方、楽器の音の聞こえ方、担当職員の参加の仕方などを確認しながら実施した。第2回から第5回までは、講師と主となる担当職員が事前に簡単な打ち合わせをしてから実施するようにした。特別養護老人ホーム入所の高齢者の方には、毎回好評で積極的に参加していただいた。担当職員4人が毎月研修を兼ねて参加し、またその内1人が交代でセッションの一部を担当し、終了後の振り返りのインタビューも実施した。

毎回の音楽療法是、開始の挨拶、ウォーミングアップの体操や発声、季節の唱歌や歌謡曲の歌唱、楽器活動、クールダウン、終了の挨拶で構成した。また、高齢者



が安心して過ごせる慣れた場所（集会室）を使い、気分転換や気分の発散、楽しみの提供を目的とし、構成要素に感覚と運動及び認知機能への刺激や働きかけを取り入れて実施した。終了前のクールダウンは、気分が高揚した状態で終了すると日常生活に支障をきたす場合があり、落ち着いた状態で日常に戻っていただくために取り入れるものである。

各回の成果として担当職員からの意見は次のようなものであった。高齢者に対しては、「普段レクリエーションなどで歌を歌ってもほとんど無反応で、促さないと歌わない高齢者が、音楽療法の時には自ら歌うことがあった」、「音楽療法がある日は、朝から楽しみにされている方があった」、「介護に対して拒否のある方が、音楽療法で歌った歌を口ずさむと穏やかになる場面があった」、「音楽療法で使用した曲を流すと、昔の思い出を語る人があった」など。職員自身については、「今まで流れ作業のようにレクリエーションを実施してきたが、一つ一つの事柄について、その意味を伝えることができるようになった」、「音楽療法は、レクリエーションとは違い、目的を持ち、効果や結果を意識しながらやっていくものである事がわかった」、「耳が遠くて聞こえないと訴える方がいたので、席の位置についても検討する必要があると思った」などがあった。

4. 成果の広報・公表

今回の研修及び研究の成果を広く他の介護職や関係機関と共有するために、各セッションの様子や解説等を冊子にまとめて発行した。各セッションの様子は写真及び講師の解説、担当職員のインタビューに加えて、撮影した動画の一部を編集して、QRコードからスマートフォンで、またURLからパソコンで視聴できるようにした。そうすることで、音楽療法の実際を多くの方に理解してもらえるよう工夫した。



発行した冊子を三重県内の約300か所の高齢者福祉施設と学校等に郵送で配布した。この助成事業については、法人の広報紙である「報徳園だより」に掲載して周知した。また、令和7年9月に成果の一部を高田短期大学介護福祉研究センターにおいて、講師及び担当職員が発表する予定である。なお、希望する方には冊子の残部がある限り、配布することになっている。

5. 今後の展開

今後は、研究成果を基にして、各高齢者福祉施設で実施する音楽療法や音楽レクリエーションなどの参考として利用してもらうことを期待している。その際に、講師の長谷川先生に具体的な質問や意見のある場合には本法人に問い合わせてもらふこととし、本法人より講師に連絡し、直接、間接に回してもらうことにしている。

また、本法人としては、引き続き長谷川先生による音楽療法を年2回程度実施するとともに、介護職員による音楽療法や音楽レクリエーションを積極的に取り組んでいく予定である。その成果を介護福祉や高齢者福祉に関連する研究会等で発表していきたい。



●助成事業成果報告

子育て支援者養成講座

NPO 法人 ファミリーステーション Rin

事務局長 牛田 由美子

1. 団体の紹介

2004年の法人設立以来、日進市を拠点に子育て支援活動を行う。2005年～つどいのひろば事業、2017年～訪問型育児家事支援事業を開始。2019年度～居住支援法人の認可を得る。2007年～にっしん子育て総合支援センター指定管理者として現在4期18年目となる。(地域子育て支援拠点・ファミリーサポート・利用者支援・子育て世帯訪問支援の4事業を受託)2020年度～連続講座「子育て支援者養成講座」を実施。2023年度～こども食堂、2024年より多機能型居場所を開始。

2. 助成事業概要

子育て家庭の現状を理解した上で、地域の子育て家庭を「見守り、寄り添い、支える活動をしていただく人材育成」のために、子育て支援者養成講座を開催した。()内は参加者数

【基礎講座】2024年7月～8月開催：全8講座

7/24 子育て家庭の現状と家庭福祉…(特非)子育て支援を考える会 TOKOTOKO 理事長 坂 鏡子氏 (13名:内5名動画)

7/27 子どものアレルギーの話&交流会…プライムツリーこどもクリニック 清水 恵子氏 (12名)

7/31 保育原理／生活と遊び…名古屋学芸大学教授 渡辺 桜氏 (11名:内3名動画)

8/7 子どもの発達と関わり…日進市保健師 宮田 あかね氏 (12名:内3名動画)

8/21 子どもの食事と栄養…日進市栄養士 出雲 絵梨奈氏 (11名:内2名動画)

8/24 小児保健…プライムツリーこどもクリニック 清水 恵子氏 (10名)

8/28 配慮が必要なお子さんへの対応…子ども発達支援センター作業療法士 倉田 朱美氏 (10名)

9/8 小児幼児救命講習…日進市消防署員 (14名)

【専門講座：訪問支援者養成講座】(全9講座)

9/13 訪問支援事業の必要性・有効性…愛知県立大学教授 神谷 摂子氏 (13名:内2名動画)



9/20 産前産後の母親の身体と育児について…名古屋記念病院産婦人科部長 廣中 昌恵氏 (18名:内2名動画)

10/4 職業倫理と配慮事項/対人援助の価値と倫理…社会福祉士 牛田 由美子氏 (16名:内4名動画)

10/5 母子ケアの重要性と効果…助産師 衣川 友紀氏 (14名:内2名動画)

10/11 子育て家庭の理解/支援事業/援助スキル…社会福祉士 牛田 由美子氏 (15名:内2名動画)

10/19 訪問時の心構え(子どもの世話)…助産師 衣川 友紀氏 (12名)

10/26 訪問時の心構え(関わり方のコツ)…訪問型サポート事業マネージャー (11名)

10/26 沐浴実習…助産師 衣川 友紀氏 (11名)

11/13 実践 スキルアップ(調理)&交流会…管理栄養士 伊藤 日奈子氏 (13名)



【その他】3講座

4/21 小児幼児救命講習…日進市消防署員 (17名)

11/10 小児幼児救命講習…日進市消防署員 (20名)

1/4 ~ 2/28 オンライン 人権研修「ネットいじめから考える人権侵害がある社会とその直し方(荻上 チキ氏)」(19名)
3/2 産後クエスト講座 金指 朋代 氏(キャリアコーディネーター)(6名)

3. 事業の成果

一次成果

- ・受講者数:基礎講座および専門講座には計47名が参加し、全科目修了者は基礎講座7名、専門講座9名となり、受講者の積極的な参加が確認できました。特に動画受講の導入により欠席者にも対応でき、修了者が増加しました。
- ・講座内容の習得:基礎講座では、現代の子育て事情や育児方法を学び、地域での子育て支援ボランティア活動に必要な基礎知識を習得しました。専門講座では、出産前後の母子ケアの重要性と訪問支援事業の必要性・有効性について学んだほか、ロールプレイングや実習を通じて実践的な専門スキルを習得しました。講師には、日進市の小児科医や保健師、栄養士、助産師、大学講師など、各分野の専門家を迎えました。
- ・オンラインでの人権研修受講、出産前後の生活をゲーム感覚でシミュレーションする「産後クエスト」を開催し、妊婦さんと共に学び合い、活発な意見交換を行いました。

二次成果

- ・支援者の増加:講座修了後、一部の参加者はファミリーサポート事業の援助会員として登録し、地域の相互援助活動を始めています。このような地域の子育て支援活動がさらに活発になることが期待されています。
- ・地域の子育て支援の強化:講座で習得したスキルを地域で活かした人材が増えることで、子育て家庭からのSOSを受入れ子育てしやすい温かい地域づくりが進むと考えています。
- ・スキルアップ交流会を通じて、支援者間での経験を共有することで、支援活動に対する理解が深まり、実践力が向上しました。
- ・出産前後の家庭に向けた講座を実施し、妊娠期の支援に理解を深めることができました。

当市には多くの子育て家庭が存在し、支援者側は就労や介護



をしながら活動している現状があるため、支援者の数は依然として不足しています。今後も「子育て支援者養成講座」を継続し、地域内外での支援者ネットワークを広げることが必要です。近隣市町とも連携し、さらに多くの理解者と支援者を育成していきたいと考えています。

4. 成果の広報・公表

1. 参加者募集と周知活動

本養成講座の参加者募集のため、800部のチラシを作成し、市民に広く周知を図りました。チラシには、講座の全体像や意義、目的、具体的な内容に加え、修了後の子育て支援活動についても案内し、地域の理解者や支援者の参加を促しました。周知方法としては以下の手段を活用しました:

- ・市の広報誌
- ・当団体・子育て総合支援センターのWEBサイト
- ・市の公式LINE
- ・公共施設や保育施設等への配布

これらを駆使して、多くの市民に情報を届けることができました。

2. 実施後の報告と広報活動

講座終了後は、実施状況の報告を行いました。具体的には、以下の方法で広報しました:

- ・WEBサイトおよびSNSで実施の様子をリアルタイムで発信
- ・ニュースレターで「養成・研修事業報告」として基礎講座・専門講座の実施状況を報告。これにより、当法人の会員や関係団体、市民の方々に支援者養成講座の必要性について理解を深めてもらいました。

5. 今後の展開

1. 講座内容や実施方法の検討

当市では核家族での子育てが多く、子育て支援活動を通じて多世代とのつながりが生まれる一方で、子育てや介護の影響で支援者が活動を離れるケースもあります。そのため、子育て支援の人材は依然として不足しており、この課題に取り組む必要があります。今後、講座内容や実施方法を見直し、地域の理解者や支援従事者としての人材育成を引き続き行い、地域全体で子育てを支える環境作りに貢献していきたいと考えています。

2. 広報と効果的な情報発信

地域住民に子育て支援活動を知ってもらうため、広報活動を強化し、講座や支援活動への関心を高めます。

- ・SNSやWEBサイトの活用:講座や支援活動の最新情報をSNSやWEBサイトで発信し、参加者の声や実績を紹介することで、地域住民の関心を引きまします。

●助成事業成果報告

転倒予防・歩行能力の維持を目的とした フットケアの啓発活動

チームやまなあし
事務局担当 前川 有希子

1. 団体の紹介

チームやまなあしは、健康で生涯にわたり歩行できる「病まない足」をつくるフットケアを提供するチームです。地域住民や介護・医療にかかわる方々にフットケアへの普及・啓発・実践活動を山梨県内で展開しています。

目的・行動は、高齢者の尊厳を守るため、いつまでも歩くことのできる足を守ることです。

- ①足爪を整えるなど、足の健康づくりを応援します
- ②サイズの合う靴の着用など、安全に歩くことを支援します
- ③転倒予防や歩行維持など健康寿命の延伸に貢献します

2. 助成事業概要

転倒予防・歩行能力の維持を推進するためには、足を大切にする意識啓発が必要です。そこで、フットケア啓発を目的とした活動として、「転倒予防の勉強会」「足爪のトラブル対応・相談会（フットケア体験会）」「フットケア技術指導」を実施しました。特に、「転倒予防の勉強会」はチラシを作成し広報活動を展開しました。その結果、保健推進委員会にう地域住民や介護職員等の参加がありました。

①転倒予防の勉強会 参加者：のべ60名

7月31日（水）「歩く」を考える 講師：理学療法士2名
内容：転ばない歩き方の講義と体バランス測定システムによる足裏体重加圧分析

9月25日（水）ウォーキングシューズの履き方
講師：フットケアサロン・シューズショップ経営者
内容：靴の役割、適切な靴の選択方法について講義

12月25日（水）足元を照らすフットライトの製作 講師：照明コンサルタント

2月10日（月）フットケア活動（足の体力測定と運動会）
講師：チームやまなあしメンバーとボランティア協力者

②「足爪のトラブル対応・相談会（フットケア体験会）」 参加者：のべ80名

転倒予防の勉強会と同一日（7月31日、9月25日、12月25日、2月10日の4回）と3月8日（土）に実施した。

個々の足を見ながら、コミュニケーションを図ることで、足に対するトラブルを有している住民が多いことが明確化されました。アロマオイルを活用したフットケア体験会は、視覚的にも効果を把握することができました。

③「フットケア技術指導」 参加者：4名

相談会開催時に関心のある人に指導できるよう、フットケアモーターを準備した。高齢者施設の介護職員と美容に関心のある住民に足爪のトラブル対応のフットケアやセルフケア手法を指導することができた。

3. 事業の成果

高齢者は虚弱になると、転倒しやすくなります。転倒は骨折、寝たきりに起因し、要介護状態に陥る要因の一つです。そこで、足部を見る、清潔にする、動かす、意識する、大切にすることが、転倒を予防し要介護状態への予防につながると考えています。これらの行為がフットケアだということを認知して欲しいと啓発活動を展開しています。また、近年、地域包括支援センターが中心となって実施する取り組みの多くは、筋力低下を防ぐための筋力トレーニングに主体が置かれています。

フットケアの対象の足部（くるぶしからつま先の部分）は、靴下や靴に包まれていることが多く、外気に触れることの少ない部位です。人の目に触れにくい部位のため、大切にしようとする意識が希薄になります。しかし、足部は体重を支え、歩行時は地面と接する部位です。足部が不健康な状態になると、身体バランスが崩れ、円滑な



歩行が困難になる恐れが発生します。

本事業は、「転倒予防」を身体の動き、靴、住環境、レクリエーションの視点から、参加者と一緒に考える機会としました。フットライト製作以外は、靴下を脱いで互いに足を見せ合い、学びあう取り組みでした。参加者の大半は70歳代以上の高齢者であり、保健推進委員等の役割を担うため、健康や転倒予防に高い意識がありました。勉強会后、参加者の多くから、「知らなかった」「友人に教えてあげたい」「大切なことを学んだ」と感想を聞くことができました。「歩く」「靴」については知っているようで知らない知識が多かったようである。4名の地域包括支援センタースタッフからは、「良い研修となった」と評価してくれた。

特に、地域にフットケアを提供するサロンが無いことより、「足爪のトラブル対応・相談会（フットケア体験会）」には多くの希望がありました。巻き爪、肥厚爪等のトラブルや、自分では手入れが困難な事例もありました。高齢者は、関節疾患や視力低下等により、足先の手入れができにくくなります。足先に手が届きにくい高齢者は、フットケア専門職に足を見せる文化が地域に定着することが望まれます。

私たちが提供した知識、技術が地域に普及することを希望します。本事業を契機に、地域に転倒予防・歩行能力の維持への取り組みが推進されていくと思われます。



4. 成果の広報・公表

本事業により、多くの方の足部を見ることができました。また、くるぶしから下位にある足部にトラブルを持つ方が多く、その対応ができず放置状態であることが把握できました。爪が切れないことを恥ずかしいと思う高齢者に私たちの活動が届くよう、成果はイラストを多用したパンフレットを作成しました。富士吉田市役所、富士吉田市社会福祉協議会、地域包括支援センター等に配布し、在宅介護のキーパーソンである居宅介護支援事業所に届け、フットケアを理解できるように促していきます。富士吉田市外の地域包括支援センターのケアマネージャーにも配布を予定している。

また、地域にいる保健推進委員や民生委員等の方々と通じて、足の運動や観察会ができるように行政を通じて働きかけていきます。特に、フットケアを受けることにより、歩行速度が上昇するようなエビデンスを得るための研究活動をしたいと希望します。そうすれば、転倒予防や歩行能力の維持には、フットケアが有益であると広く理解されていくと考えます。

5. 今後の展開

本事業は、富士吉田市および富士吉田市社会福祉協議会の後援名義、(株)ツクイ富士吉田営業所の協力のもと実施することができました。また、成果は、山梨県内の市町村に広報活動を展開していく予定です。すでに、他地域からも「足爪のトラブル対応・相談会（フットケア体験会）」開催の要望があるため、積極的な啓発活動を展開していきます。

また、ドイツ式フットケアを見てもらう機会になったが、実際に技術指導は4名でした。今後は、フットケア技術者を養成し、フットケアニーズに対応できるように組織化した活動を展開していくことを切望します。高齢者には、フットケアニーズを持つ方が多く、「フットケア」がより広く普及されることが望まれます。チームやまなあしとしては、草の根的な活動を継続し、転倒予防、歩行能力の維持にはフットケア効果が有益であることをエビデンスをもって実施していきたい。



2024 空飛ぶ車いす in Sri Lanka

車いすがはじめてスリランカへ渡った2001年から今日まで3920台の車いすを必要な方に届けることができました。2024年の贈呈式と参加した『空飛ぶ車いすを応援する会』メンバーのレポートを紹介します。このメンバーは学生時代から車いすの修理活動をはじめ、社会人になった今も活動を続けています。

■ 日程

8月29日(木) AM 成田空港出発 PM スリランカ到着
8月30日(金) AM サナシカホームにて車いすの点検・修理講習
PM 地元アソーカさん訪問インタビュー
8月31日(土) AM 車いす贈答セレモニー PM スリランカ出発
9月1日(日) 成田空港到着

現地協力団体：サハナサラナ財団



贈呈式には車いすを待つ多くの方がいらっしゃいました

「続けてほしい」、何度も聞いた

梅原 直人

2023年4月にアリーさんが亡くなってから初めての活動となった。

当初はうまく進行できるか不安を感じていたが、財団スタッフの努力で修理会場、寄贈式ではこれまで通り進めることができた。寄贈式や修理会では、これからも続けたい、送ってほしいという言葉のスリランカ側から何度も聞いた。

道路はでこばこで比較的海からも近いことから、車いすを利用するのは日本の環境よりもとても厳しく、そして屋外使用頻度が多く、雨にぬれたり、壊れやすい

ことを改めて感じた。

海の近くで車いすを使っている方のお宅を訪問した。たった2年でサビが酷く、タイヤの面が平になっていることを目の当たりにして驚いた。必要な人には続けて支援する必要がある、プロジェクトは1度の寄贈で終わりではないということも感じた。

そういった意味ではアリーさん亡きあとも空飛ぶ車いすを継続してほしいと何度も話すスリランカ側の気持ちはとても分かる。私もできるかぎり期待に応えられるよう活動は続けたい。



車いす利用者のアソーカさんは一人暮らし。16歳の時に電車にひかれて両足を切断した



海岸から20mほどの場所にあるアソーカさん宅。海風の影響で自宅も車いすも傷みが早い

タイヤ交換指導に手ごたえあり

市川 祐輝

空飛ぶ車いすに参加して10年以上経ち、様々な国に車いすを送ってきました。その中でスリランカが一番多いと感じ、自分たちが修理した車いすがどのように使用者の手に渡し、どのような環境下で使用されているのか気になっていました。

初の海外なので、文化や食べ物の違いが不安要素として多々ありましたが、実際行くと発展途上ではあるものの思いのほかインフラ、ライフラインが整っており、食べ物の相性もよく、安心して活動に取り組むことが出来ました。

修理ではサハナサラナ財団の方たちにノーパンクタイヤの交換を教えていた際、一通り修理方法を教えた

後に、すぐに取りかかって交換を完了していた。このときの技術を覚えよう、1台でも多くの車いすを直そうとする姿勢に感激いたしました。言語の壁はありましたが、英語やジェスチャーでなんとかコミュニケーションを取りつつも楽しく作業を進められました。

今回の海外ボランティアで、車いすを修理する高校生たち、それを運ぶ人たち、そして現地で車いすを整備し寄贈する人たちが、車いすをバトンの様に受け渡されている事を実感でき良い経験だったと思います。今回を踏まえ今後の活動にもより一層尽力して行きたいと思っています。



現地スタッフに指導しながら細かい修理方法を伝えます



現地での最終チェックも全台おこなわれました



修理工房に工具箱を寄贈して記念写真を撮りました



意欲的に手伝う現地スタッフと協力して作業します

空飛ぶ車いすボランティア校紹介 神戸市立科学技術高等学校

車いす修理活動を行っている高校が全国にあります。
今回は神戸市立科学技術高等学校の活動報告の一部を紹介します。

通算3,000台目の車いす出荷達成（8月）

8月には、通算3,000台目となる車いすを海外に送り届けることができました。21年間継続して行ってきた活動が一つの節目を迎えることができ、日々の活動の意義を感じることができました。当日は、20台の車いすを本校から送り出しました。うち、3000台目・3001台目となる2台は黄色い梱包を行い、生徒

たちがメッセージを書き込みました。これらの車いすは、10月にコンテナ船でタイ王国へ届けられました。私たちが送り届けた車いすによって、車いすを必要とする方の生活がより豊かなものとなるように願っています。



活動開始から21年で3,000台を達成しました。私たちの整備した車いすが世界で誰かの大切なパートナーになり、活躍してくれることを願い、送り出しました。

「高校生ボランティア・アワード2024」への参加（2024年8月6～7日）

高校生ボランティア・アワード2024に今年も参加することができました。9回目となる今回の大会は、過去最多である152団体のエントリーがある中、6月に行われたオンライン交流会での選考を経て、88団体が8月に東京・新宿にてブース発表を行いました。東京での全国大会へは、2,3年生の4名の生徒が参加をしました。

学校外にて私たちの活動を発表する機会は少なく、参加した生徒は、はじめは緊張をした様子で他の参加者に私たちの活動について説明をしていましたが、徐々に慣れ、笑顔も見せながら交流をすることができ

ました。他校の生徒にとっては、工業高校という珍しさで自分たちで工具を使い、修理をして海外に届けるということの規模の大きさにとても驚いていました。普段の修理活動を多くの人に知ってもらうことができたうえ、日本全国で様々なボランティア活動に取り組んでいる同世代と交流をすることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。また、昨年に引き続き、一昨年前の本校卒業生が「ライオンユース」という大会当日の運営ボランティアに参加しており、半年ぶりの再会をすることができ、お互いの頑張りを話し合うことができました。



オンラインでの予選の様子（6月）

遠く離れた宮城県や高知県・宮崎県の高校生と共に、3分間のプレゼンに臨みました。皆さん、誰かのために問題を解決しようと尽力していることに感銘を受けました。



全国から大勢の高校生が集まりました。各校工夫されたブースが並んでいます。



本校のブース前にて工具やタイヤを持参し実演・説明を行いました。多くの方に話を聞いていただきました。普通科高校の皆さんは、工具や車いす整備に興味津々でした。



神戸市立科学技術高等学校

2024年度活動概要

(1) 活動実績

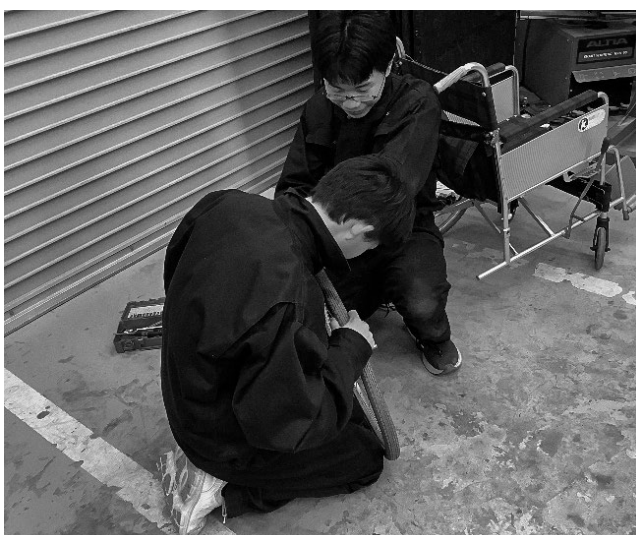
① 本年度寄贈台数（2023年4月～2025年3月）…………… 73台

② 累計 寄贈台数（2004年4月～2025年3月）…………… 3,054台

(2) 活動形態

① 部活動「空飛ぶ車いす研究会」……放課後と長期休業中、部員12名が修理活動

② 授業「課題研究」……毎週木曜日4～6校時、機械工学科3年10名が修理活動



互いに切磋琢磨しながら技術を磨いています。



女子生徒も頑張っています！



直径の小さなタイヤ（14、16インチ）の交換は、力もコツも必要で難しいです。



校外での活動に備えて、タイヤのパンク修理の練習も行いました。

車いす修理のQ&A

車いす修理で皆さんがつまずきやすいポイントを紹介します

Q リム幅の合わないタイヤはどうしたらいいの？

A グラインダーでタイヤを少しずつ研磨して、幅をきっちり合わせてください。カッター等を使うと削りすぎて、簡単にタイヤが外れてしまいます。グラインダーを使用しましょう。



Q タイヤを取り付けるときの注意は？



A ノーパンクタイヤはタイヤの溝の山が進行方向を向くようにして取り付けましょう。

Q 梱包するときの注意は？

A タイヤにブレーキをかけずに梱包してください。倉庫での保管期間や輸送期間の間に、タイヤにブレーキ跡の凹みができてしまいます。



いつでも、誰でも「はがき1枚」から参加できる ボランティア活動。

—「書き損じはがき」の収集にご協力をお願いします—

「空飛ぶ車いす」は、日本で使われなくなった車いすを
日本の工業高校生が修理・再生して
アジアに贈るボランティア活動です。



「空飛ぶ車いす」は、
多くのボランティアに支えられています。

はがき収集 ボランティア

全国の「はがき収集ボランティア」から
届けられた「書き損じはがき」を切手
に交換し、さらに企業等の協力により
切手を現金化して“パンクしないタイ
ヤの購入費用”や“工業高校から
国際空港までの車いす輸送費用”に
充てています。

修理 ボランティア

工業高校のクラブ活動や
課題研究等授業の一環で
車いすの修理を行います。

輸送 ボランティア

ビジネスや観光などで
アジア各国を訪問する際に、
搭乗機手荷物として
運びます。

ご寄付をいただいた皆さま

(2024年1月～12月)

数ある団体の中から当会の趣旨に賛同いただきご寄付を賜りました皆さまに

感謝申し上げます。温かいご支援ありがとうございました。

(敬称略・順不同)

岩手県社会福祉協議会
神栖市社会福祉協議会 神栖本所
ジブラルタ生命保険株式会社
三菱総研DCS株式会社
炭谷 茂
木村 芳枝

竹谷 尚人
株式会社協栄年金ホーム ヴィラ・ナチュラ
滝口 泰之
瑞浪市社会福祉協議会
栃木市社会福祉協議会 藤岡支所

お問い合わせ・
はがき送付先

公益財団法人
日本社会福祉弘済会

〒136-0071 東京都江東区亀戸 1-32-8
URL ▶ <https://www.nisshasai.jp/>
TEL. 03-5858-8125 FAX. 03-5858-8126



ジブラルタ生命「Myページ」のご案内

お客さまの人生に末永く寄り添い、サポートするためのサービスとして、「Myページ」をご案内しています。
本サービスをご活用いただくことで、これまで以上にお客さまに安心をお届けいたします。



お客さまの担当への
連絡リクエスト*

契約内容の確認

オンライン医療サポート
「LIFE Well」の利用

各種手続き

ご契約に関する重要書類・
通知物の確認

*ライフプラン・コンサルタントからご加入いただいたお客さま専用のサービスです。

ご登録には証券番号が必要です。

以下にあてはまるご契約はご登録いただけません。あらかじめご了承ください。

- ・ご契約者が「法人（教弘保険を除く）」「未成年」「一部の特定団体からの加入者」「成年後見制度を利用されている方」のご契約
- ・「解約」「失効」「満期」など現在有効でないご契約、および「年金支払開始後」のご契約
- ・企業保険、企業年金、当社が他の生命保険会社の商品を代理販売したご契約

私たちは世界最大級の金融サービス機関、プルデンシャル・ファイナンシャルの一員です。

プルデンシャル・ファイナンシャルは、世界最大級の金融サービス機関です。150年の歴史を誇り、米国、アジア、ヨーロッパ、ラテンアメリカを中心に事業を展開しています。子会社および関連会社を通じて、生命保険、年金、退職商品および関連業務、投資信託、資産運用を含む幅広い金融商品とサービスを提供しています。



プルデンシャル・ファイナンシャル 本社ビル（米国ニュージャージー州）

日本で生命保険事業を展開する プルデンシャル・グループ

プルデンシャル・ホールディング・オブ・ジャパン
(保険持株会社)

ジブラルタ生命

プルデンシャル生命

PGF生命
(プルデンシャル・ジブラルタ・ファイナンシャル生命)

日本のすみずみまで、保険の愛を。

「公益財団法人 日本社会福祉弘済会」は、
ジブラルタ生命と提携し「福祉の共済」を推進しています。



ハートで支える 日杜済!

ニッ シャ サイ 日杜済の 主な事業



社会福祉助成事業

公募による社会福祉関係者の研修・研究事業等への助成を行っています。



アジア福祉助成事業

全国社会福祉協議会と連携した福祉の国際協力パートナーの養成と、その活動の支援・助成を行っています。



空飛ぶ車いす支援事業

アジア等の障害をもつ方々への車いす修繕・寄贈を支援しています。



社会福祉関係者の共済に関わる事業

福祉関係者の福利向上のために提携会社を通じて団体扱生命保険を提供しています。

